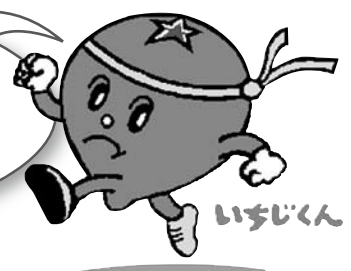


平成21年5月 オープン予定!! いちじくの里を 多伎いちじくを全国

整備します ブランドに



いちじくの里は
こんな施設になるよ!



いちじくを全国にPRする、
体験・交流の場

いちじく館

加工体験室

いちじくジャムやワインシロップなど、いちじくの加工品や地元農産品を使った加工体験を、各種団体やグループによって予約制で実施したり、イベントを開催したりして、特産品PRや地産地消、交流の促進を図ります。



PRコーナー・ふれあいショップ

いちじくにまつわるさまざまな情報を提供するとともに、いちじくジュースやアイスなど、その場で食べてもらえる商品を提供します。



新技術と後継者育成で 生産力をアップ

実証ほ場

ハウス11aと露地3.7aで、いちじく栽培の実証試験を行います。コンテナ溶液栽培を実施し、植栽1年目からの収穫(通常は3年目から)と10a当たり4トン(通常は1.5トン)の収穫を目標に栽培方法の確立を目指します。
また、アグリビジネススクールのいちじくチャレンジ講座の実習施設として活用し、栽培技術の習得と新規就農者の拡大を図ります。



加工室・調理室

特産品開発加工グループなどにより、いちじくやその他の特産品、農産物や海産物の加工を行い、農林水産物直売施設での販売を行います。

農林水産物直売施設

現在、週2回開催されている“さんさん市”を、農産物、海産物を販売する常設の直売施設として運営します。あわせて、ぶどう、かき、いちじくなど、市の特産品を取り揃えて、出雲市の西の玄関口での特産品のPRを行います。



後継者を育て、さらなる生産量の増加を目指します
(写真はアグリビジネススクールいちじくチャレンジ講座)



いちじくは無花果?

いちじくは、漢字で無花果と書きま
す。実際には、いちじくに花がない
わけではなく、外からは見えない
果実の中に小さな花がたくさん
できます。これがブチブチと
した独特な食感を生
み出します。

多伎いちじくの出荷時期は、8月上旬から10月下旬。栽培品種の“蓬萊柿(ほうらいし)”は、上品な甘さが特徴です。お菓子やジャム、姿煮などの加工品も数多く販売されています

市では、多伎いちじくを全国ブランドとして定着させ、また生産振興を図る目的で、道の駅「キララ多伎」周辺に『いちじくの里』を整備する計画を進めています。
いちじくの里は、いちじくのPRならびに新技術の導入による生産拡大と後継者育成、さらには地産地消、都市と農村の交流の場となります。
この計画の概要についてお知らせします。

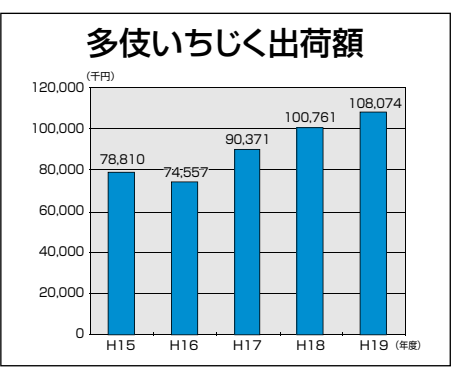
出荷額1億円を突破

“多伎いちじく”は、道の駅「キララ多伎」や「多伎いちじく温泉」などの整備によって知名度が向上し、また、加工品の開発が行われたことで消費拡大が進んできました。
平成15年度には、県の「しまねブランド産品」に選定されたことに伴い、生産が拡大し、平成18年度から2年連続で出荷額が1億円を突破し、出雲市の代表的な特産品の一つとなっています。
今年3月には、政府が顕彰する「立ち上がる農山漁村」に選定されました。

いちじくの里で 全国ブランドの確立を

いちじくの栽培面積の拡大や販路拡大に向けた取り組みを行い、栽培面積は増加してきているものの、生産者の高齢化、品質の確保、高価格の維持など、将来的な産地拡大やブランド化には多くの課題を抱えています。
全国的な市場からすれば、多伎いちじくのブランドとしてのイメージはこれからといえます。
そこで、市では多伎いちじく

を全国ブランドとして確立するために、“いちじくの里”を整備する計画を立てました。
計画地は、道の駅キララ多伎の国道9号を挟んだ南東にある市有地約8,300㎡で、総事業費は約2億7,200万円。
いちじくのPRや体験・交流を進めるための「いちじく館」と、いちじくの生産拡大やさらなる品質向上のために新たな栽培技術を導入する「実証ほ場」を整備し、ビジネス化に向けた研究や後継者育成に取り組めます。
管理運営については、地元団体による組織で運営し、施設の売上収入により維持費をまかなうことにしています。
平成21年5月頃のオープンを目指し、いちじくの里の整備を進めていきます。



地域の夢を叶える 新しい会社へ



いちじくの里法人設立発起人代表
鳥屋原 敏夫さん(多伎町久村)

いちじくの里の構想は、合併前の旧多伎町で計画されていたもので、地元でも大きな期待を寄せています。現在、いちじくの里を地域の住民パワーで盛り上げようと、地元の団体や個人が中心となって、管理運営を行うための会社の設立に向けた準備を進めています。
多伎いちじくを全国に広げるとともに、品種改良や後継者の育成に取り組むことは、農地の保全や環境の向上、定住の促進にもつながります。将来的には加工品を含めて4億円の販売額を目指し、地域を愛する私たち住民の力で、いちじくの里をまちおこしの中核施設にしていきたいと考えています。

●いちじくの里のPR
おたすね
農林政策課 (たすね@sonon.jp)